

栗山町スキー場の廃止

1. 栗山町スキー場の概要

- (1) 名 称 栗山町スキー場
- (2) 所 在 地 栗山町桜丘1丁目97番地2
- (3) 敷地面積 8.4ヘクタール
- (4) ロ ッ ジ 木造2階建291.06㎡
- (5) リ フ ト 単線固定循環式1基
- (6) 開設年度 昭和46年度(リフト設置年 昭和48年)
- (7) 年間利用者数 平成27年度 32,377人(開設日数55日間)
平成28年度 44,096人(開設日数75日間)
平成29年度 27,639人(開設日数47日間)
平成30年度 運営休止

2. 平成30年度の栗山町スキー場運営休止の経過

- (1) スキー場リフト支柱調査結果により平成30年度のスキー場運営休止を決定
 - ・基礎コンクリートは、ひび割れや断面欠損、表層劣化など、著しい劣化。
 - ・鉄骨支柱は、塗膜劣化、錆の進行、特に梁の部材の劣化が著しい支柱あり。
 - ・基礎コンクリートは補強修繕可能だが、鉄骨支柱の補修は不可能。
 - ・現状ではリフトの安全運行はできない。
- (2) スキー授業及びスキー連盟の主催事業について
 - ・小・中学校、高校のスキー授業は北長沼スキー場を利用
 - ・スキー連盟の事業は北長沼スキー場及び岩見沢グリーンランドスキー場を利用

3. スキー場に対する意見交換会等の開催経過

- (1) 栗山町総合計画審議会(第6次総合計画後期計画の審議において各種計画事業について議論)

月 日	開催回数	対 象	委員数
H30. 9. 19~12. 6	8回	栗山町総合計画審議会委員	25人

- (2) まちづくり懇談会(町が直面する主な課題として、①日赤の改築、②介護福祉学校の存続、③栗高の存続、④駅周辺・商店街の活性化、⑤スキー場の存続について懇談)

月 日	会 場	対 象	出席者数
H30. 10. 31~11. 13	町内25カ所	全町民	271人

- (3) 栗山町スキー場に対する意見交換会(スキー場の現状を説明し、今後について意見聴取)

月 日	開催回数	対 象	出席者数
H30. 12. 17~H31. 3. 27	10回	スキー団体、社会教育委員、スポーツ推進委員、 小中学校保護者及び全町民	88人

(主な意見)

主にスキー場の存続を求める意見

- ・財政は大変だが、他の課題に対する経費を少しでも下げてスキー場にまわしてほしい。
- ・子どもの親としては、栗山町にスキー場は残してほしい。
- ・子どもの体力向上などの問題を考えると、冬のスポーツができる施設は必要。
- ・北長沼スキー場は、近隣の町村も同じ時間帯でスキー授業に使うため、滑走中に他校の生徒などとぶつかる危険性が高い。
- ・スキー場を廃止したとしてもウインタースポーツに親しむ場所としてスロープは残してほしい。

主にスキー場の廃止も仕方がないという意見

- ・町の収支バランスや大きな課題を考えると、今後もスキー場運営を継続していくのは難しい。
- ・近年、スキー場のオープンが遅れるなど降雪量の問題も出ている。
- ・子どもの人数も年々減少し、教育現場や社会情勢、町の予算を考えると今後もスキー場運営を続けるのは、将来的にマイナスではないか。
- ・近隣にたくさんのスキー場があるので廃止も仕方がない。

その他の意見

- ・スキー連盟の指導力は高いため栗山の子どもたちのスキーレベルは高い。
- ・以前からスキーリフトは問題視されていた。壊れるまで手を掛けていなかったのは管理者の責任。
- ・簡易リフトは中途半端。今後のことを考えるとペアリフトの新設か廃止の二択になると思う。
- ・栗山公園は町外から多くの人を訪れる。御大師山を観光施設として交流人口を増やす取り組みを。
- ・シャトレゼが栗山町に進出したときにゴルフ場を冬期間、スキー場として活用できないかと話していたことがある。
- ・今の時代は、アレもコレもではなく、アレかコレかの選択をしなくてはならない。

4. 栗山町スキー場の廃止

今後さらに進行する少子高齢・人口減少や、日赤病院の改築問題など山積する町政課題など厳しい財政状況の中、持続可能なまちづくりを推進していくため、近隣市町のスキー場の広域利用が可能で、子どもたちがスキーのできる環境を今後も確保できる見通しがあること、さらにリフト等を更新する場合の町財政への影響などを総合的に勘案し、行政として栗山町スキー場の廃止を決断いたしました。